

不死の道

の中

①昔、人に不死の道を知ると言ふ者有り。

②燕の君 人をして 之を受けしむ。
君主 は に これ させようとした

③捷やかならずして、言ふ者 死す。
その人は 急いで行かなかつたので 不死の道を が 死んだ

④燕の君 甚だ 其の 使者を怒り、將に 誅を 加へんと
君主 は とても その 忠告し 言うことには 今にも 死罪を 与えよう
寵愛されている家臣 こと

⑤幸臣 諫めて 曰はく、「人の 憂ふる 所の者は、
急である こと 言うことには が 心配する こと した。
君主 は 忠告し こと

死より急なるは 莫し。
死である こと あります

⑥己の 重んずる 所の者は、生より 過ぎたる は 莫し。
自分が 大切にしている もの 上のもの あります

⑦彼自ら其の生を喪へり。
君主 は その 失った

⑧安くんぞ 能く 君をして 死せざらしめんや。」と。
どうして まだ その(不死の) いや、死なないようになされようか
君主 に 死なないようにさせられようか

⑨乃ち 誅せず。
そこで 死罪にしなかつた 彼も いや、死なないようにさせられません

⑩齐子なるもの有り、亦 其の道を学ばんと欲す。
そこで 死罪にしなかつた その(不死の) 思つた

⑪言ふ者の死せるを聞き、乃ち 膚を撫して恨む。
不死の道を 語る が 死んだ こと ここで 死者を まだ その(不死の) 胸 打つ 残念がつた

はそのことを
聞い この人(齊子) 笑つ 言うことには そもそも 学ぼう
してある もの

⑫富子聞きて之を 笑ひて曰はく、「夫れ学ばんと 欲する所は

不死なり。

その(不死の道を語る)
⑬其の人 すでに死んで、その上やはりこれ(不死の道を学べなかつたこと)

⑭是れ 学を為す 所以を知らず。」
かれは 学ぶことの理由 己に死して、而も猶ほ之を恨む。

⑮胡子曰はく、「富子の言は
が 言うことには 言つてのこと 間違つてゐるのだ
非なり。

⑯凡そ人には術 有りて行ふ能はざる者、有り。
總じて 技術 あつ 実行することができない いる
能く 行ひて 其の術 無き者も、亦 また いる
間違つてゐるのだ

⑰能く 行ひて 其の術 無き者も、亦 有り。
実行することができない いる
能く 行ひて 其の術 無き者も、亦 また いる
間違つてゐるのだ

⑱衛人に數を 善くする者 有り。
衛の人 占い 上手に行う
実行することができない いる
能く 行ひて 其の術 無き者も、亦 また いる
間違つてゐるのだ

⑲死に臨みて 誤を以つて 其の子に喩す。
臨ん で 秘訣
ある人 が その 言葉 心に留めておいたが しかし 実行することはできなかつたのだ
他人 之を 問へば、其の父の言ふ 所を以つて 之に告ぐ。
ある人 このこと 尋ねると 言つたこと この人 告げた

⑳其の子 其の 言を志す も、而も 行ふ能はざるなり。
その 言葉 心に留めておいたが しかし 実行することはできなかつたのだ
其の子 其の 言を志す も、而も 行ふ能はざるなり。

尋ねた は その(教えてもらつた) 言葉 用い その 技術 行うと
問ふ者 其の は その(教えてもらつた) 言葉 用い その 技術 行うと
他人 之を 問へば、其の父の言ふ 所を以つて 之に告ぐ。

その 同じようにできた
其の父と差ふ無し。

もしそうであるならば死んだ者(父)は
・若し然らば死者 奚として
能はざらんや。」と。
説くことができないことがあろうか(、いや、説くことができる)
言ふ為れぞ 生術を